

平成26年度四手井綱英記念賞 選考理由

受賞対象論文

渡部哲也・淀 真理・木邑聡美・野元彰人・和田恵次. 2012. 近畿地方中南部沿岸域におけるスナガニ属4種の分布－2002年と2010年の比較－. 地域自然史と保全, 34(1):27–36.

選考理由

海浜の潮上帯に造穴して生活するスナガニ科スナガニ属のカニ類は、自然海岸の指標であり、海浜を訪れる人々に親しまれている動物でもある。かつて日本の暖温帯域においては、スナガニとミナミスナガニの2種が分布するとされていたが、近年は熱帯・亜熱帯性のツノメガニ、ナンヨウスナガニが頻繁に記録されるようになっている。

著者は、このような現象が南方系同属種の北進を示すもので、在来の温帯性種であるスナガニの生息・分布への影響が危惧されると捉え、広域的な分布調査に取り組んでいる。

調査は、近畿地方沿岸を中心とした岡山県東部沿岸域から紀伊半島南岸までの範囲に存在する砂浜海岸45地点に調査地を設定して行われ、2002年と2010年に同一の方法でスナガニ属の生息調査を実施し、8年間における経年変化について検討された。

受賞論文はこれらの調査データを取りまとめ、両時期のデータについて比較したものである。その結果、近畿地方中南部の沿岸域では8年間に熱帯性のツノメガニとナンヨウスナガニが外海域から内海域に分布を拡大していることが明瞭に示された。

温暖化に伴うと考えられる南方系生物の北進現象についての知見は数多いが、断片的な記録が多く、本研究のように長期的視野に立ってデザインされ、経年変化を立証して得られた成果は貴重である。また考察においては、スナガニと南方系種との競争関係について既往の知見と重ねつつさまざまな角度から検討し、「ツノメガニの進出がスナガニ個体群の消滅に必ずしも結びつくわけではないことを示唆している」と慎重に論じている。このような成果は、スナガニ類に精通している5名の著者たちによる精力的なフィールドワークとチームワークに負うところが大きいと考えられ、調査手法もユニークである。

以上の理由から、本誌第34巻1号に掲載された論文「近畿地方中南部沿岸域におけるスナガニ属4種の分布－2002年と2010年の比較－」を高く評価し、平成26年度四手井綱英記念賞を授与することとした。

関西自然保護機構編集委員会
四手井綱英記念賞選考委員会